

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文社会学科	夜・通信			23	23	13	
		夜・ 通信	24		8	32	13	
経済学部	経済学科	夜・通信			22	22	13	
		夜・ 通信	24		8	32	13	
法学部	法律学科	夜・通信			74	74	13	
	政治学科	夜・通信			74	74	13	
		夜・ 通信	24		6	30	13	
商学部	商学科	夜・通信			24	24	13	
医学部	医学科	夜・通信			70	70	19	
理工学部	機械工学科	夜・通信			35	35	13	
	電気情報工学科	夜・通信			35	35	13	
	応用化学科	夜・通信			35	35	13	
	物理情報工学科	夜・通信			35	35	13	
	管理工学科	夜・通信			35	35	13	
	数理科学科	夜・通信			35	35	13	
	物理学科	夜・通信			35	35	13	
	化学科	夜・通信			35	35	13	
	システムデザイン工学科	夜・通信			35	35	13	
	情報工学科	夜・通信			35	35	13	
	生命情報学科	夜・通信			35	35	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信			18	18	13	
環境情報学部	環境情報学科	夜・通信			18	18	13	
看護医療学部	看護学科	夜・通信			55	55	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			29.5	29.5	19	
	薬科学科	夜・通信			14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾 Web サイト「在学生」→「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」→「履修案内・講義要綱・時間割」ページから、pdf の「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」にリンクを張り公表している。 <p>例) 三田キャンパス https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/</p> <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾通信教育課程 Web サイト「学部」→「講義要項（シラバス）」→「[2020]以降はこちら」に実務経験のある教員等による授業情報を公表している。 <p>https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/syllabus.html 「実務経験のある教員等による授業科目」 https://slbs.tsushin.keio.ac.jp/doc/2022_hosoku.pdf</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>慶應義塾 web サイト「理事・監事一覧」で公表 https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/organization/leadership-2.html</p>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役社長	2022.11.25 ～ 2026.10.31	学務重要事項、資産の取得・処分、事業計画、決算等のチェックおよび決裁
非常勤	株式会社特別顧問	2022.11.25 ～ 2026.10.31	学務重要事項、資産の取得・処分、事業計画、決算等のチェックおよび決裁
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>通学課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年 10 月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11 月にシラバスの作成を依頼。翌年 1 月から 3 月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『講義要綱・シラバス』として 3 月中旬を目途に公表している。 ・閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 在学生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修」→「履修案内・講義要綱・時間割」ページ 例) 三田キャンパス https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/ ② 一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。 https://gslbs.adst.keio.ac.jp/ <p>通信教育課程：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年 11 月に次年度の授業担当者が決定するので、12 月にシラバスの作成を依頼。翌年 1 月から 3 月にかけて編集し、『スクーリング講義要綱』、『テキスト科目履修要領』として 4 月までに公表している。 ・閲覧方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 学生用ポータルサイト (kcc-channel) で公開している。ID とパスワードでログインし、閲覧する。 ② 『スクーリング講義要綱』について、希望者には製本印刷したものを配布している(『テキスト科目履修要領』は学生全員に製本印刷したものを配布している)。 ③ ホームページで外部にも公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/syllabus.html 	
授業計画書の公表方法	
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

通学課程：

- ・ 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。

通信教育課程：

- ・ 通信授業（テキスト）
学生は各科目をテキストで履修し、レポートを提出した学生は指定の時期に科目試験を受験する。科目試験の成績は、S・A・B・C・Dの評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 面接授業（スクーリング）
学生は履修申告した面接授業に出席し、履修した科目については指定の時期にスクーリング試験を受験する。スクーリングの成績は、S・A・B・C・Dの評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与える。
- ・ 卒業試験
卒業試験は卒業論文と総合面接試験によるものとする。学生は必要な単位を修得した上で、卒業論文を指導教授に提出し、指導教授の審査を受ける。教授から許可された学生は、指定の日時に主査・副査による総合面接試験を受ける。諮問の結果を教授会に諮る。S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した卒業論文には所定の単位を与える。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

通学課程：

- ・ 2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価の評語とその基準点数およびGPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、学生向けのWebサイトに掲載している。
「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→（項目）「時間割・シラバス・履修」と（項目）「学業成績表」
例）三田キャンパス 文学部
<https://www.students.keio.ac.jp/mt/flet/>
- ・ GPA算出式
Grade Point S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0

$$\frac{(\text{Grade Points} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{総履修単位数}}$$

通信教育課程：

2017年度からGPA制度を導入し、5段階評価のグレード別のポイント、GPAの算出方法、対象となる科目および併せて導入した履修登録取消制度を、全学生に配布する『塾生ガイド』に掲載している。

- ・ GPA算出式

Grade Point S:4.0, A:3.0, B:2.0, C:1.0, D:0.0

$$\frac{(\text{Grade Points} \times \text{単位数})\text{の総和}}{\text{総履修単位数}}$$

- ・ 適用される学生

入学年度が2017年度以降の正科生。

- ・ 対象科目

通信授業（レポート合格かつ2017年度以降に科目試験を受験した科目）

面接授業（体育スクーリング、実験スクーリング含む）

メディア授業

卒業論文（卒業論文審査、総合面接試問の結果）

- ・ 履修取消制度

面接授業を定められた履修登録取消期間に手続をした場合、取消した科目はGPAの対象とはならない。

「成績の分布状況」第1学年分については別途添付。

客観的な指標の算出方法の公表方法	通学課程： ・「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「学業成績表」→「成績発表」 https://www.students.keio.ac.jp/com/class/grade/ 通信教育課程： 『塾生ガイド』に掲載している。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 通学課程： ・卒業の認定方針は、学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトならびに学生に配布している学部学則にて公表している。卒業要件（履修科目や単位数など）は、学生に配布している履修案内（Web サイトでPDF でも公表）と学部学則で学生に公表している。 通信教育課程： 各学部のディプロマポリシーは以下のとおり。 ・卒業の認定方針は学部毎に学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）を定め、Web サイトならびに学生に配布している「塾生ガイド」にて公表している。卒業要件（履修科目や卒業単位数など）も「塾生ガイド」にて学生に公表している。	

<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>通学課程： 慶應義塾Webサイト「慶應義塾について」→「情報公開」 →「3つの方針（学位授与・教育課程・入学者受入）」で 公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/</p> <p>通信教育課程： 全学生に配布している補助教材『塾生ガイド』に明記。入 学希望者向けにホームページにて公表している。 文： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html</p> <p>経済： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html</p> <p>法： https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html</p>
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	慶應義塾大学
設置者名	慶應義塾

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	慶應義塾 web「情報公開」ページ「財務状況」にて公表している。
収支計算書又は損益計算書	https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/
財産目録	慶應義塾 web「情報公開」ページ「事業報告書」にて公表している。
事業報告書	https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/
監事による監査報告(書)	https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 慶應義塾 web「情報公開」ページ「大学点検・評価」にて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾 web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)
(概要) 本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を培うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)
(概要) 文学部（人文社会学科）は、本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成する。すなわち「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざす。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)
(概要) 文学部（人文社会学科）は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実施するために、総合教育科目、必修語学科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を編成する。 文学部の研究教育の対象は、人文学、社会科学に限定されるものではなく、自然科学や学際的な分野も包含する幅広さと多様性を特徴とする。したがって文学部の教育課程も多様な科目や分野によって編成される。特に総合教育科目、必修語学科目においては、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力の形成をめざした科目編成や授業運営を実施する。また専門教育科目においては、所属する各専攻にかかわる基礎的な知識を基盤として、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような体系的な教育課程を編成・実施する。さらに専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、学生が自ら定めた研究・学習課題をさまざまな授業科目や学習機会によって達成できるような教育課程を編成・実施する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾 web「各学部における 3 つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)

<p>(概要)</p> <p>文学部では次のような資質・能力を有する学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心 ・先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語） ・与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力 ・現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史） <p>これらは、文学部が設置しているすべての専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）に共通しており、入学後、それぞれの専攻における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけてゆく。したがって、文学部に入学する者は、これらの専攻が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要である。</p> <p>以上の方針に基づき、一般選抜を実施する。さらに、この方針に沿いつつ、より多様な人材を入学させるための自主応募制による推薦入試（自己推薦入試）や、帰国生入試や留学生入試を行う。</p> <p>具体的には、一般選抜は、外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。自主応募制による推薦入試は、高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考査によって選抜する。そのほか、帰国生入試と留学生入試では、学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。</p>

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部の教育目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>一般教養、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>総合教育科目、外国語科目、経済学に関する基礎教育科目・専門教育科目などを、バランス良く各学年に配置し、学年制を取る。4年間で126単位以上の取得を課す。また、一、二年時の自由研究セミナー、教養系を中心としたセミナー（研究プロジェクト）、経済学専門のセミナー、英語による経済学履修コース（Professional Career Program）など少人数教育の充実につとめている。さらに、大学全体の国際交換協定</p>

とは別に、学部独自の交換協定を締結し、在学中における海外大学での単位取得を奨励している。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 社会に積極的に関与する強い意志を持ち、自らの智力によって変化する社会を把握しようという気概をもった人間を求めている。また、学問的基礎に基づいて厳密に考える能力にすぐれると同時に、バランス感覚に富み、多様なものの見方を尊重できる人材の育成を目指している。このような知性により社会の指導的役割を担える潜在力を備えた多彩な学生を受け入れたい。</p>
<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要) 法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。</p> <p>法律学科 法学部法律学科は、社会現象を法的な視点から捉え、柔軟かつ的確な判断のできる法的思考力を有する人材の育成を目的とする。</p> <p>政治学科 法学部政治学科は、現代社会および歴史上の諸問題を政治学的な視点からの的確に分析し、創造的かつ総合的に判断する能力を有する人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 法学部では、学部の教育目標（カリキュラムポリシー）に基づき編成された教育課程において、所定の年限在学し、学則第80条に定める外国語科目単位、第81条に定める人文科学、自然科学、数学・統計・情報処理および社会科学科目の所定の単位を修得し、かつ第82条の定める法律学科法律学科目ないしは政治学科政治学科目のなかから所定の単位を修得した者に、学士の学位を与える。個々の科目の単位認定にあたっては、厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に修得されているか否かに留意するものとする。 学生は、法律、政治両学科で教授される専門的知見の修得はもとより、外国語や世界の諸事情に通じ、人文・社会・自然科学的教養を身につけた「独立自尊」の人として、国内外を問わず先導者としての社会貢献を果たすことが期待される。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 法律学科では、将来の法律家を育てることにとどまらず、社会現象を法的にとらえ、論理的に思考する能力、すなわちリーガルマインドの涵養を目標とする。政治学科では、将来の政治家や公務員を育てることにとどまらず、個別の行為や事象を社会</p>

全体との関連で考察し、適切に位置づける能力の涵養を目標とする。さらに法学部では、両学科に共通する外国語・人文科学・社会科学・自然科学などの総合科目にも重点を置く。法学部の教育は、この3本の柱が有機的に統合されることで構成されている。

現代社会において求められる人間像は、十分な専門的知見を有しながら、創造的な思考能力や個性を持ち、さらに総合的な政策能力を併せもつ主体であろう。それは、ゼネラリストでありつつ高い専門的素養を備えている、あるいはスペシャリストでありながら総合的な知識と教養を有する人である。そのような人物の養成を目指し、法学部のカリキュラムは以下の方針のもとに組み立てられている。

(1) 専門的知見を身につけ、法律学、政治学のエキスパートとして通用する学生を育てる。

法律学科、政治学科のカリキュラムは、それぞれ充実した専門科目群を擁している。専門科目の履修は1年次から始められ、「導入」から「応用」へと段階を踏んで学べるように構成されている。また、多彩な科目群から、各人の興味と関心に応じた履修選択も可能である。さらに、ゼミナールや演習科目など少人数教育が充実している。

(2) 幅広い領域の知見を有し、主専攻に加えて第2の専門を持つ個性派学生を育てる。

法律学や政治学の専門的知見のみならず、人文科学・社会科学・自然科学の広範にわたる知見を得て、総合的・融合的な学問・思考を創造できるよう、総合教育科目が多彩に展開されている。また、法律学・政治学以外の学問を深く研究し、これを第2の専門とする個性派学生の育成にも努めており、そのために設けられた「副専攻制度」は、人文科学や自然科学の一領域について、講義科目や演習科目を4年次に至るまで計画的・段階的に履修し、究めることのできる法学部独自のプログラムである。

(3) 外国語に強い国際派学生を育てる。

法学部では、言語と文化の多様性に対応するべく、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語と多彩な外国語科目を揃え、うち2つを必修外国語として履修するものとしている。とくに徹底して外国語を学びたい学生には、インテンシブコースが用意されている。さらに意欲があれば第3外国語を学ぶことも可能である。

(4) 大学院での学びにつながる研究能力や高度の思考力・分析力を有する学生を育てる。

法律学、政治学に関わる専門的分野を究めようとする学生のために、「その先」を目指すカリキュラムが用意されている。たとえば、大学院法学研究科設置の一定の科目の先取り履修を認め、進学後に大学院の単位として認定する制度を設けている。また、「法曹コース」は、一定の要件を満たすことにより、学部を3年で卒業し、連携する法科大学院への進学を可能とするものである。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

(概要)

法学部では、慶應義塾の建学の精神を理解し、国際的な視野に立ちつつ、新しい社会を創造し先導する気概を持つ学生を求めている。入学する学生には、法学部の教育目標(カリキュラムポリシー)をよく理解し、そのカリキュラムの下で学習するために必要な学力、能力、そして意欲を有していることが求められる。その具体的な審査方法は、一般選抜、帰国生入試、留学生入試、指定高校による推薦入試、そして自己推薦形式でのFIT入試と多様であり、それぞれに制度の趣旨は異なるが、それらに共通する目標は、一定の知識水準を有し、その上で知的好奇心に溢れ、かつ個性豊かな学生を選考することである。

学部等名 商学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要) 商学部は、福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、社会の変化に対応する形で発展させていくことを教育と研究の基本とする。教育においては、この基本を踏まえ、現実社会の抱える問題を自ら発見し、科学的思考と商学の専門知識を用いて解決案を提示し、実行する能力を養うことで、未来社会に貢献する人材を育てることを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに、経済や社会の現象についての実証的な観察・分析を通じて現代の社会が抱える問題を自らの力で発見し、解決案を提示し、実行するための能力、および高い倫理観と責任感を兼ね備え、社会の発展に貢献するリーダーとしての資質を身につけることが重視される。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 4年間の教育課程を通じ、現実社会における諸問題の発見、仮説の構築と検証、主張の発信を自立的に遂行できる力を養成することを目標とする。「商学」を現代の産業社会全体を対象とする理論的実証的な研究という広い意味でとらえ、商業学、会計学、経営学、産業・経済の知識を体系的・有機的に学ぶほか、総合教育科目や外国語科目では、社会全体に対する豊かな問題関心と自分の考えを世界に向けて伝えるための情報発信力を養う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 商学部では、産業社会の抱える問題を自ら発見し、説得力ある解決策を導き、発信する能力を養うことにより、国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。入学者の選抜もこの方針に沿って実施されており、社会に対する強い関心、論理的な思考能力、資料を読み解く力、英語をはじめとする基礎学力をとくに重視している。</p>

学部等名 医学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要) 独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>医学部の使命・教育目標に基づき、カリキュラム・ポリシーに沿った全科目（外国語科目、人文・社会科学科目、基礎科学必修科目、医学基礎教育科目から構成される「基礎教育科目」、基礎・社会医学系科目、自主学習、臨床医学系科目から構成される「専門教育科目」）を履修し、学則で定めた卒業条件を満たし、さらに以下に定める8つの卒業時コンピテンスを修得した学生に学士（医学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> I. プロフェッショナリズム II. 医学知識 III. 診療の実践 IV. コミュニケーション V. チーム医療の実践 VI. 医療・福祉への貢献 VII. 科学的探究 VIII. 国際医療人としての資質 <p>※「自主学習」とは、研究室に配属され、教員とマンツーマンで研究活動をおこなう教育プログラム。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>医学部の使命・教育目標に基づき、「自律的学習能力」「科学的思考能力」「医療プロフェッショナリズム」「基本的臨床能力」の修得を基本方針として、基礎教育科目、専門教育科目（基礎・社会医学系科目、自主学習、臨床医学系科目）の有機的連携を図り、8つの卒業時コンピテンスを修得するための学部カリキュラムを編成・実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> I. プロフェッショナリズム II. 医学知識 III. 診療の実践 IV. コミュニケーション V. チーム医療の実践 VI. 医療・福祉への貢献 VII. 科学的探究 VIII. 国際医療人としての資質
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学医学部は、本学の使命「独立自尊と実学（サイエンス）の精神に基づき、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する」に基づき、「基礎臨床一体型の医学・医療の実現」の理念の下、人材を育成してきた。</p> <p>本学医学部は、この使命・建学の精神を理解し、次世代を先導し、豊かな人間性と深い知性を併せ持つ医学生を強く求める。そのために、創立者 福澤諭吉の「一身独立（自ら考え、実践する）」の教えを理解し、世界に雄飛し、患者中心の医療を実現できる physician scientist（科学的思考力を備えた医師）となりうる医療人としての資質、使命感、学習意欲を重視し、卒業時コンピテンスを修得しうる人材を選抜する。</p> <p>入学試験での評価は、次のように行う。 基礎学力：学科筆記試験（数学、理科、英語。詳細は入試要項参照のこと）、面</p>

接、および小論文により評価する。

学習意欲・態度、使命の理解、倫理感：調査書、面接、小論文により評価する。

読解力・文章能力：学科筆記試験、小論文により評価する。

自らの考え方を他者に説明する能力、コミュニケーション能力：面接、小論文により評価する。

【入学までに身につけておくべきこと】

医学部では、幅広い知識や技能を修得し、実践することが求められる。また、卒業後は、医療人として、生涯にわたって学び続けることが求められる。そのために、大学に入学するまでに、次の教科・科目についての学力とともに、自ら学ぶ学習態度を身につけることが期待される。

数学：数量的な概念の理解、論理的思考力、計算力

理科：物理、化学、生物など自然科学についての十分な理解と科学的思考力

英語：英語の読解力、表現力、コミュニケーション能力

特別活動および課外活動：主体性、協調性、共感・思いやり・気遣い、利他性(奉仕の心)、倫理感、責任感、洞察力など

学部等名 理工学部

教育研究上の目的

(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>)

(概要)

理工学の研究教授を通して、豊かな創造力、確かな研究・開発能力、幅広い国際教養を修得した先導者を育成することを目的とする。

機械工学科

エンジニアに求められるセンス

これからの社会は、「メカニクス」と「情報」によって支えられると考えている。メカニクスとは、「質量を持つ物体およびエネルギー」を対象とする学問分野の総称で、実在するモノを人間社会に役立てることを追求する工学(エンジニアリング)の原点である。地球環境や人間社会と調和する科学技術の確立が、これからのエンジニアには求められている。時代を超えたベーシックサイエンスと実践的カリキュラムこれからの科学技術は、いままでとは異なった発想が必要である。そのため、将来のエンジニアとして活躍が期待されるみなさんにぜひ身につけてほしいことは、「メカニクスの基本」と「自由な発想」の融合である。機械工学科のカリキュラムでは、メカニクスの本質を学ぶ「力学の基礎」科目と、学生個々の夢とアイデアを実現する手段を学ぶ実技・実習科目を用意し、基礎力・探究心・創造性に溢れる人材の育成を目指している。

電気情報工学科

新たな技術革新を生み出す技術者、研究者の養成

電気情報工学は、電気と光を情報処理・伝達的手段やエネルギー源として工学技術に応用する学問分野である。電気情報工学の発展は日進月歩で、かつ学際領域へも幅広く展開されているため、最先端であっても表層的な知識では、すぐに役に立たなくなってしまう。電気情報工学科では、新たな先端技術を切り拓く技術者、研究者を養成するためには、体系化された基礎学問をきちんと修得することが重要であるという考えに基づき、数学・電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、情報工学、制御工学といった電気情報工学に関係する学問体系をきちんと身につけることを教育の目的としている。さらに、半導体デバイス、集積回路、フォトニク

ス、情報・通信などの電気情報工学とその応用分野の最先端研究に参画することで、技術のブレークスルーを主体的に進めることができる人材の育成を目指している。

応用化学科

人類のグローバルな課題に挑む化学の基礎から応用までを網羅する応用化学は、化学の基礎に立脚し、新しい物質をデザインし、創り出し、その物質の機能を制御することを目的とした学問分野である。このため、その研究領域は物質に関わるあらゆる分野、すなわち物理学、生物学、薬学や医学などにも広がっている。応用化学科では、環境・エネルギー・医療など人類の生活水準の向上において問題となるグローバルな課題を、物質を通して解決することで、未来の持続型社会の構築に貢献できる科学者・技術者を養成するように努めている。応用化学科では、高い専門性と広い視野を身に付け、これからの国際社会で活躍することのできる人材育成のため、化学の共通基礎科目と、その上に4つの研究分野（マテリアルデザイン、環境・分析・プロセス工学、オーガニックサイエンス、バイオサイエンス）を設けた特色あるカリキュラムを用意している。

物理情報工学科

物理情報工学科は、イノベーションにつながる応用物理を学ぶ学科であり、物理学と数学を基盤として、森羅万象に潜む物理現象やシステムに対する「真理の探究」を行うとともに、新しい「価値の創造」に果敢に挑戦している。本学科の使命は、(1)世界的に高く評価される研究、(2)国際社会のリーダーとなる学生の育成、の2つである。研究対象は、化学や生物学・医学的な領域も含めた「広い意味での物理」分野であり、先端工学の特徴である自動化・情報化・システム化を取り入れることによって、新しい情報技術・医療技術・環境エネルギー技術の創出を目指している。教育目標は、森羅万象が私たちに囁きかけている“声”に耳を傾け、語り掛けようとしている“表情”に目を向けられるような「物理情報」力の先導的育成であり、「自我作古」の勇気と使命感を持って「前人未踏の新しい分野」を開拓する気概のあるチャレンジ精神の醸成である。

管理工学科

科学技術を社会基盤に変えるために

ある技術開発が人間や社会にとって真に必要なか？生産・普及が容易か？資金面で実現可能か？従来、科学者や技術者の思考の枠外にあった、こうした視点や発想が益々重要になっている。科学技術の成果を価値ある社会基盤へと昇華させるためには、情報、資金、ハードウェアといった異質な要素を関連づけるためのマネジメント技法を開発せねばならない。

人間社会システムのデザインとマネジメント

管理工学とは上述のように技術開発の是非を問い、実行に移すための理論と応用を旨とする学問であり、具体的な研究フィールドは、生産システム、インターフェイス設計、企業体、公的組織体から、交通システム、都市システム、世界経済や環境問題まで、多様な広がりを持つ。当学科は、科学技術全般から人間心理や企業経営、社会動向までを勘案できる総合的な思考力と、問題発見の能力を持った技術者と研究者の養成を目指す。

数理科学科

数学および統計科学など、数理科学の理論と研究手法を教授することで、抽象的・普遍的に物事を見る力やデータから情報を的確に読み取る力を育み、変化する時代においても確実な判断を下し、幅広く社会に貢献する人材の育成を目的とする。

物理学科

物理学科では、全ての科学技術の基礎である物理学を学び、論理的に思考できる力と問題解決能力を身につけた、社会に貢献できる人材を育成することを教育研究の目的とする。物理学は、極微の世界から物質、生命、宇宙にいたる幅広いスケールの自然現象を調べ、背後に潜む普遍的な原理や基本法則の解明を使命とする精密科学であると同時に、科学技術が高度に発達した現代社会を根底から支える基盤科学である。従って、物理学の進歩は人類の更なる発展にとって非常に重要である。物理学科は、高度の専門知識を武器に様々な重要問題に柔軟かつ果敢に挑戦する人材がこれからの社会に必要であるという理念の下に、精密科学と基盤科学に根ざした知的探求を通じた教育研究を行い、科学技術分野を中心に広く社会に貢献できる優秀な人材を輩出することを旨とする。

化学科

化学科は、自然科学として化学を追究し、分子・原子スケールの基礎的理解に基づいて、理論・物理化学から、無機化学、有機化学、生命化学まで「幅広くかつ質の高い基礎化学」の教育を通じて、将来にわたって理工学における新たな概念・ユニークな物質の創成を実現する国際レベルの科学者・研究開発技術者を育成することを目的とする。

システムデザイン工学科

基盤技術を総合的に活用システムデザイン工学とは、工学システムとそれを取り巻く環境との調和性を実現する新しい学問学分野である。システムとは、宇宙、エネルギー環境、建築、情報、ロボット、バイオなどのハードウェアシステムとインフラストラクチャを意味し、デザインとは、システムを構成する要素の価値を高める最適システムの設計と制御のことである。システムデザイン工学では、個々に独自の発達を遂げてきた要素技術を統合し、技術と技術、技術と人間、技術と社会のより高い調和した状態をデザインすることを目指している。

システムデザイン技術の体得

システムデザイン工学では、設計の対象とそれを取り巻く環境を含めてシステムとしてとらえ、その問題点を解析・抽出し、新しいシステムの設計・提案を行う。カリキュラムは工学的アプローチの基本である力学的手法と制御情動的手法を柱とし、そこから基礎技術を融合する学問を教授する。

情報工学科

20世紀後半になって個人を時間的、場所的な束縛から解放する情報を扱う技術が発展した。さらに21世紀に入り、情報は人だけでなく、ロボットのような知的機械から、日常のありふれた物までも対象とするようになった。情報を有機的に効率よく交換させるための通信の技術とその未来を正しく理解し、情報を把握して人間の役に立つように処理する画像・音声およびコンピュータ技術をしっかり身につけた、世界をリードする先端技術者を養成することが情報工学科の使命である。このような、コンピュータ科学、メディア工学、通信工学を「情報」の観点から融合的に扱う情報工学分野において、情報の発生、獲得、伝達、蓄積、処理、表示などにわたる学術の発展と人材の養成を通じて、社会に貢献することを目的とする。

生命情報学科

生命情報学科では、生命科学の新時代を見据えた人材育成を目指す。ヒトゲノムの全容が明らかになり、DNA暗号から作られるRNAやタンパク質、細胞表面の糖鎖などとの相互作用が作り出す様々な生命システムの解明は、新しい産業を興している。またヒトの神経系や認知機能に関する研究は、超高齢化社会に向けての重

<p>要な基盤技術を提供する。生命情報学科はこの新しい分野を自らの手で開拓し、幅広い知識と専門性を兼ね備えた、中核的役割を果たす人材を育成する。生命情報学科では、基礎学力として生物系、化学系、物理系、情報系の4つの分野を身に着けるために、今までにないカリキュラムを提供する。具体的には、物理・化学に基礎を置いた生体高分子の考え方、コンピュータを利用した生命機能・構造に関する膨大な情報の扱い方などを、実験・実習などで実際に手を動かしながら、「生命現象をシステムとして理解すること」を習得させる。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 理工学に関する基礎教育科目・専門基礎科目・学科専門科目などに加えて、外国語科目と総合教育科目を各学年に配置し、それらを学年制という枠組みの中で積上げ式に修得する。世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的として、少人数セミナーや国際人材を育成するプログラムを充実させ、理工学の多岐にわたる学問分野の科目を必修として課している。また、1年間の卒業研究および卒業論文の執筆と発表を通じて、総合的なプロジェクト実行能力の修得を課している。さらに、在学中における海外大学での単位取得、海外インターンシップ等の在外経験の蓄積を大いに奨励し、気品と智徳を併せ持つ人材の育成を目的としている。すべての科目において厳格な評価を実施し、4年間で138単位以上の取得した者に学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 【1】「今ある最先端を学ぶのではなく、次の最先端を拓く基礎を学ぶ」をモットーに基礎重視の教育を行う。 ○上記の点を確固たるものとするために、厳選された必修科目を通して各自が基礎学力、基盤的知識をしっかりと身につける授業体系となっている。また、履修計画にゆとりを持たせ、各自の関心に応じた勉強ができるように、科目選択の自由度を高める工夫もなされている。 ○学部4年間を一貫した総合カリキュラムとし、さらに大学院進学率68%以上という現状を考慮し、修士課程を含めた6年間を通じ個性と能力を伸ばしうる、体系的なカリキュラムを組んでいる。 【2】 科学技術各分野の専門家にとどまらず、科学技術の置かれている現在の状況を的確に把握し、科学技術と人間社会とのより良い関係に着目できる、社会のリーダーを養成する。 ○生命、環境、社会、芸術、外国語など、様々な分野の科目を総合教育科目として設置し、理工学部教育の重要な柱のひとつに位置づけている。総合教育科目を学部4年間にわたって学べるようにすることで、視野の広い、柔軟な思考のできる科学技術者・研究者を育成する。 【3】 幅広い教養とグローバルな視野を持ち、世界を舞台に活躍できる逞しい人材を育成する。 ○外国語教育においては、いくつもの語種にわたり、コミュニケーション能力の向上を重視した、充実した教育プログラムが学部4年間にわたって準備されている。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>理工学部では、その教育・研究理念に沿って、未知の領域に挑戦する強い意志と、深い洞察力と豊かな創造力をもち、幅広く国際教養を身につけ、これからの日本と国際社会を先導すべき優れた人材の育成を目標としており、これに応えることができる、意欲ある学生諸君の入学を歓迎する。一般選抜を筆頭に多様な入試（指定校推薦、留学生、帰国生、A0、一貫教育高校からの推薦入学）を実施し、様々な能力をもつ学生が互いに切磋琢磨し、創発効果を生み出せる教育研究環境を目指す。</p>

学部等名 総合政策学部

<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>総合政策学部は、多様な問題を解決し社会を先導する「問題解決のプロフェッショナル」を育成することを目標とし、「実践知」を教育理念としている。政治、法律、経済、社会、文化、テクノロジー、心と体などさまざまな領域を取り込みながら、問題を発見し、その解決に向けて学生と教員が一体となって取り組むことを重視する。高い問題意識に基づき、自ら考え、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある人材を育成することを目的とする。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>「実践知」を理念とする。慶應義塾の伝統である「実学（サイヤンス）」を継承し、複雑な社会現象のなかから課題を発見し、その解決に向けた政策を立案することを可能にする態度・知識・技能を身につけた人材を育成する。問題発見・問題解決の「態度」とは、目の前にある明らかな問題を見過ぎさないだけでなく、隠された問題を見つけ出すことを目指す態度である。そのためには、既存の研究成果における「知識」を学ぶことが前提となる。そして、新たな時代における問題発見・問題解決には、既存のやり方にとらわれない革新的な「技能」が必要であり、実践的授業を通じてそれを身につけた人材を育成する。その際、既存の技能を学ぶだけでなく、自ら新たな技能を創造することを奨励する。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>「実践知」を理念とし、また「実践」をメソッドとして身につけた「問題発見・問題解決のプロフェッショナル」育成を目指す。学生が自ら能動的に問題を発見・分析・解決する能力をつけるために、研究会中心の教育課程を編成している。総合政策学部では「政策デザイン」「社会イノベーション」「国際戦略」「経営・組織」「持続可能なガバナンス」の五つの研究領域をゆるやかに設定するとともに、それらの横断的・学際的な教育・研究を積極的に後押しする。1年生の必修となる「総合政策学」では、それらの基礎となる知識をイントロダクションとして設定し、まず1年生は広く総合政策学に関わる研究領域に触れる。そして、「基盤科目」としてくくられる基礎的な科目群において前提となる知識を身につける。その後、「先端科目」としてくくられる先端的な課題を検討する科目群において社会で今起きている問題とその解決策について学ぶ。同時に「研究会」では、過去・現在・未来の政策的課題について分析し、そして総合的な解決策を練り上げる能力を実践的に磨く。最後に、そうした成果を「卒業プロジェクト」として論文や作品の形でま</p>
--

とめる。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 総合政策学部は「実践知」を理念とし、「問題発見・解決」を重視する学生を求め る。問題を発見・分析し、解決の処方箋を作り実行するプロセスを主体的に体験 し、社会で現実問題の解決に活躍することを期待する。したがって、入学試験の重 要な判定基準は、基礎学力に裏付けられた、自主的な思考力、発想力、構想力、実 行力の有無である。「SFCでこんなことに取り組み学びたい」という問題意識に基づ いて、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある学生を求める。また、多様な学生を 集め、学生同士が互いの強みを活かせるように、一般選抜、A0入試(総合型選抜)、 帰国生入試、外国人留学生入試といった多彩な入試を実施し、A0入試については英 語による受験も認めている。</p>

学部等名 環境情報学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要) 環境情報学部は、地球的規模で問題を発見しそれらの問題を解決することを目標と し、そのために、既存の学問に加え全く新しい学問に挑戦し続けることを研究教育方 針としている。情報、生命、心身の健康、環境とエネルギー、デザイン、防災やメデ ィアなどの新しい課題領域に対応するために、自らの力とともに、仲間との協働の力 によって、先端の科学とテクノロジーを前提とした未来のグローバル社会を創造する 先導者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 「創造する力」の育成を目的とする。何かを創り出すためには、先人たちの叡智を 学び、理解した上で、一步前に踏み出す力が必要である。そのためには、自由な発想 力と想像力を身に着け、一方で自ら実行したことをエビデンスに基づいて真摯に評価 できるスキルと態度が必要となる。「評価できる」ためには、自分が設定した問題を 鋭く捉えることや、主張を裏付けるための知識や技能が必要となる。また、世の中 の常識を疑い、常に問題意識を持ち続け、本質を追求し続ける研究的態度も不可欠 である。環境情報学部では、研究を中心とした学びによって、失敗を恐れずに膠着 した社会を揺り動かし、未来社会の創造に貢献できるスキルを身に着ける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 受動的な講義中心のカリキュラムではなく、プロジェクトへの参加を主体とした能 動的なカリキュラムを中心に教育課程を編成している。カリキュラムは、「研究会」 を中心に据えたものとなっており、「研究会」での研究活動に必要なスキルを自ら選 んで学んでいけるように構成されている。必修科目、あるいはそれに準ずる科目と して「環境情報学」「言語」「データサイエンス」「情報基礎」「ウェルネス」が設定 されている。1年生のときに「環境情報学」を履修し、環境情報学部で学べる分野を 知り、学習のモチベーションを高めている。「言語」「データサイエンス」「情報基礎」</p>

<p>エルネス」では環境情報学部で学ぶにあたって必須となる知識や技能を身につけるとともに、生涯に渡って心身ともに健康に生きるための術を身につける。また、研究に必要な力を身につけるにあたり、環境情報学部が持つ多様性に対応するため、「先端情報システム」「先端領域デザイン」「先端生命科学」「環境デザイン」「人間環境科学」の5分野の「基盤科目」と「先端科目」が環境情報系科目として数多く設定されている。学生はこれらの科目を組み合わせで深く学ぶ。また、総合政策系科目を履修することで視野を広げることが可能である。これらの学びを行うことによって学生は自分なりの研究分野を見出す。更に、自分なりの研究分野を設定するために、複数の「研究会」を履修することも推奨されている。最終的には「卒業プロジェクト1、2」を通じて、学部における自らの学びの集大成を作り上げる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) ひとつの学問分野にとらわれることなく幅広い視野を持ち、地球規模で問題発見・解決できる創造者でありリーダーを目指そうとする学生を歓迎する。環境情報学部の理念や研究内容をよく理解した上で、「SFCでこんなことをやってみたい」という問題意識を持って入学してくれることを願っている。SFCの教育環境や先端プロジェクトなどあらゆるリソースを積極的に活用し、「自らの手で未来を拓く力を磨いてほしい」と期待している。また、多様な学生を集め、学生同士が互いの強みを活かせるように、一般選抜、AO入試(総合型選抜)、帰国生入試、外国人留学生入試といった多彩な入試を実施し、AO入試については英語による受験も認めている。</p>

<p>学部等名 看護医療学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf)</p>
<p>(概要) 本塾建学の精神に則り、生命・人間尊重の精神と豊かな人間性を備え、深い知性と倫理観に基づく判断力と実践力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、看護医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成を目的とする。この理念に基づく人材養成にあっては、次のような資質を涵養することを目標とする。(1)基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる素地を培う。(2)看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉の発展に寄与する基礎能力を養う。(3)看護学の実践・研究および他の学問分野との相互交流により実学としての看護医療の発展を先導する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが学士号授与の要件となる。また、卒業までに次の5つの力を有することを重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基盤となる人間力 基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる力を有する。また、幅広く社会への関心をもち、人々と出会い交流し相互作用ができる力を有する。 2. 看護医療の専門的力 看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉を先導するための基礎的能力を有する。

3. 連携・協働する力
高度化された医療に対応し、さまざまな専門職のチームで互いの専門性を最大限に活かして、より優れた実践に繋げるために行動できる能力を有する。
4. 国際的に活動する力
国際的な感覚をもち、日本の位置や役割を捉えられる幅広い教養を身に付け、他国の医療専門職と協働できる柔軟な発想と行動ができる基礎的能力を有する。
5. 変化を起こす力
看護や医療および社会で起こっている、あるいは起こりうる事象への関心を深め、問題を発見する批判的能力、問題解決能力、変革力を有する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

(概要)

カリキュラムは4つの領域で構成し、基礎から実践力まで養う。

1. 人間・社会科学領域

<情報技術><自然言語><ヒューマンケアリング><制度・社会>の4つの分野から成り立ち、人間や社会を広く深く理解するための科目が配置されている。

2. 健康科学領域

<健康科学・病態学><先端医療>の2つの分野から成り立ち、心身の健康と健康破綻時の病態、およびその回復過程を理解するための科目が配置されている。

3. 看護科学領域

<基礎看護学><母性看護学/助産学><老年看護学><小児看護学><成人看護学><精神看護学><在宅看護学><地域看護学><グローバルヘルス>の9つの分野から成り立っている。人間をどうとらえるか、人間が生きて生活する環境をどうとらえるか、人間の健康をどうとらえるか、看護そのものをどうとらえるかについて様々な視点からアプローチできるような科目が配置されている。

4. 統合領域

<看護・医療統合>分野から成り、「人間・社会科学領域」「健康科学領域」での学びを基盤に「看護科学領域」の9つの分野全体を見渡し、医療とは何か、看護とは何かを改めて問い直すような科目が配置されている。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

(概要)

看護医療学部は、「人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人」、「人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションでき、関係を築いていこうとする人」、「ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性と対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある人」、「自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験から学び、自身を成長させようとする人」、「自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする人」を求めている。学部開設の目的である、人々と社会のため看護医療の先導者となる意欲ある人材を、一般選抜、AO入試、第2学年学士編入学試験などの多様な方法により選抜している。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的

(公表方法：慶應義塾web「情報公開」ページにて公表している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/assets/data/purpose-undergraduate.pdf>)

<p>(概要) 本塾建学の精神に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。</p> <p>薬学科 薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。</p> <p>薬科学科 薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 薬学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての広い教養を身につけ、高い倫理観、使命感を有していること ・医療人として必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得していること ・医薬品適正使用の基盤となる科学を修得していること ・医薬品の専門家としてチーム医療に貢献できる能力を修得していること ・地域保健医療に貢献できる能力を修得していること ・医療薬学領域における問題発見・解決能力を修得していること ・生涯を通じて国内外の最先端の医療知識を取り入れ活用する能力と態度を有していること <p>薬科学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学や創薬研究に関わる上で必要な高い倫理観、使命感を有していること ・生命科学や創薬研究に必要な基礎的知識と技術を修得していること ・科学に立脚した問題発見・解決能力を修得していること ・科学者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得していること ・最先端の情報を収集し活用する能力と態度を有していること
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html)</p>
<p>(概要) 薬学部では、科学の基盤を持ち、グローバルな視点に基づいて、未来医療を先導できるプロフェッショナルを養成することを目標とする。本目標を達成するため、以下に列挙する視点を重視した教育課程を編成、実施する。</p> <p>薬学科</p> <p>【教育課程編成の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本 ・教養教育と倫理教育による高い倫理観と患者への思いやり、チーム医療における協調性と責任感の醸成 ・外国語教育等を通じた医療分野での国際性の涵養 ・医薬品や化学物質と生命現象を理解するための基礎的な科学力の習得 ・適正な薬物療法を推進するための知識および実践的技能の習得 ・健康増進や公衆衛生の向上のための知識の習得 ・卒業研究を通じた問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力の醸成

これらの視点に基づく科目を有機的につなぎ、体系的な教育課程を構築する。

【教育方法と学修成果の評価】

各科目では、その目的と特性に応じて、講義、演習、グループワーク、実習に加え、薬局・病院での実務実習および講座・センターに配属されて行う探究活動等、様々な形態を用いて授業を実施する。また、授業科目の目標に到達したかについては、試験、レポート、パフォーマンス評価等によって学修成果を評価する。成績評価の方法と基準は各科目のシラバスおよび学習指導要領に明記し周知する。

薬科学科

【教育課程編成の方針】

- ・生命科学を中心とした自然科学の知識・実験技術の習得
- ・薬学に特徴的な科目による医薬品や医療の知識の習得
- ・生命科学や創薬研究に関わる人材に相応しい倫理観の醸成
- ・卒業研究を通じた問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力の醸成
- ・外国語教育等を通じた科学者としての国際性の涵養

これらの視点に基づく科目を有機的につなぎ、体系的な教育課程を構築する。

【教育方法と学修成果の評価】

各科目では、その目的と特性に応じて、講義、演習、グループワーク、実習、および講座・センターに配属されて行う探究活動等、様々な形態を用いて授業を実施する。また、授業科目の目標に到達したかについては、試験、レポート、パフォーマンス評価等によって学修成果を評価する。成績評価の方法と基準は各科目のシラバスおよび学習指導要領に明記し周知する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：慶應義塾web「各学部における3つの方針」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/policies/index.html>)

(概要)

福澤諭吉の建学の精神は、独立自尊の人格を育成し、気品の泉源、智徳の模範となり全社会の先導者たる人を養成することである。薬学部では、建学の精神に則り、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的に薬学の理論と応用とを研究教授する。その目的を理解し、化学、数学、語学（英語）の基礎力と薬学を学ぶ強い意志を持つ学生の入学を求める。

薬学科（6年制）

- ・医療薬学を学び薬剤師の資格を持って社会に貢献する意欲のある学生

薬科学科（4年制）

- ・自然科学に興味があり、薬の創製等を通して人類へ貢献する意欲のある学生

(通信教育課程)

学部等名 文学部

教育研究上の目的

(公表方法：通信教育課程webサイトにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>)

<p>(概要)</p> <p>通学課程において17の専攻分野から成る文学部は、通信教育課程において3つの類に区分される。第1類は哲学、第2類は史学、第3類は文学をそれぞれの中核とする。</p> <p>第1類</p> <p>哲学、倫理学、美学美術史学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学の各専攻領域を中心として、広義の哲学や人間科学に含まれる専門研究を行う。人間の存在、認識、価値を省察する哲学や倫理学から、実験を基盤として自然科学の性格をも帯びる心理学、個人の美的感受性の分析から集団のコミュニケーション研究まで、多様な分野がある。</p> <p>第2類</p> <p>日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学の各専攻領域を中心として、歴史に関する専門研究を行う。それぞれの専門領域の枠をこえて、キリタン史のように東西にまたがる研究や、また西洋と東洋の接点であるオリエントの歴史、ポリネシアや東南アジアにも及ぶ民族学と考古学など、時間軸から世界を捉えようとする研究分野もここに含まれる。</p> <p>第3類</p> <p>国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学の各専攻領域を中心として、文学と言語研究を主要な対象とした研究を行う。日本の諸大学の文学部の中でも特筆に価するレパートリーの広さと伝統を持ち、第1、2類の諸専攻との連携の上に立って、専門的かつ総合的な研究を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部(通信教育課程)は、本塾建学の精神に則り、哲学、美学、文学、図書館・情報学、人間関係学、史学、文学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成する。すなわち「文(ことば)」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざす。</p> <p>文学部(通信教育課程)では、学生が所属する「類」(第1類:哲学を主とするもの、第2類:史学を主とするもの、第3類:文学を主とするもの)、およびその中で扱われる専攻領域によって求められることが多少異なる。学生は、執筆を希望する卒業論文のテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ、指導教員の指導のもとで卒業論文の執筆を進める。所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、学士の学位が授与される</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部(通信教育課程)は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実施するために、総合教育科目(必修外国語科目を含む)および専門教育科目(第1から第3の「類」に分類)から構成される教育課程(カリキュラム)を編成する。それぞれの科目の編成・実施の方針は、以下に示すとおりである。</p> <p>文学部(通信教育課程)の研究教育の対象は、人文学、社会科学に限定されるものではなく、自然科学や学際的な分野も包含する幅広さと多様性を特徴とする。したがって文学部の教育課程も多様な科目や分野によって編成される。特に総合教育科目(必修外国語科目を含む)においては、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力の形成をめざした科目編成や授業運営を実施す</p>

る。また専門教育科目においては、所属する類にかかわる基礎的な知識を基盤として、学生が自らの学習を進め、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような体系的な教育課程を編成・実施する。さらに所属する類以外の専門教育科目等の履修も可能とし、学生が自ら定めた研究・学習課題をさまざまな授業科目や学習機会によって達成できるような教育課程を編成・実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/flet/policy.html>)

(概要)

文学部(通信教育課程)では次のような資質・能力を有する学生を求めている。

- ・ 慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心
- ・ 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力(日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語)
- ・ 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力
- ・ 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識(日本史または世界史)

これらは、文学部(通信教育課程)が設置しているすべての類(哲学を主とする第1類、史学を主とする第2類、文学を主とする第3類)に共通しており、入学後、それぞれの類における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけていく。したがって、文学部(通信教育課程)に入学する者は、これらの類が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要である。

以上の方針に基づき、入学選考を実施する。入学選考は書類選考によるが、今後の学習勉強計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められる。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求める。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表している。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html>)

(概要)

通信教育課程の経済学部は、経済学系と商学系の大きく二分されるカリキュラムを用意している。

経済学と商学はたがいに隣接する社会科学の分野で、どちらも現代社会における広い意味での経済現象を考察の対象としている。しかし経済学は、地域や国家や世界といったさまざまな経済の担い手が集まった複合体の特質の解明に、より大きな関心がある。他方で商学や経営学は、国家の観点からではなく、あくまで一企業の観点から研究を行う学問である。ただしこれらは力点の置き方の違いであって、経済学的な考察のためにはしばしば商学的なより現実的知識が必要である、商学的なより実践的学の基礎としては経済学的な思考が不可欠である。

経済学部は、経済学の基礎コースからはじまり、経済理論・計量経済、経済史・学史・思想史、経済政策、日本経済・国際経済、商業学・経営学・会計学、法律学の各コースを提供している。学生は学則の定めるところに従って、これらのコースから自分の関心に最も合致した科目を履修することができる。

ただし経済学の基礎コースは、一人一人がいかなる関心を持つにせよ、経済学部の学生として不可欠のものである。その上で、昨今の経済学の状況に各々異なった成立

<p>事情と思考方法を持つ複数の流れがあることを十分認識しておく必要があり、これらの諸潮流について正しい知識を体系的に持つことによって、経済現象について確固たる判断を下せるように努力しなければならない。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与することを方針としている。授与する学位は、学士（経済学）である。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページで公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 通学課程では経済学部と商学部がそれぞれ独立しているが、通信教育課程では経済学部の中で商学部系の科目が履修できるようになっている。専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、広い分野にわたって科目を履修することになる。経済学部を設置されている各コースは、いずれも経済現象の理論的分析と実証的分析への基本的視点を提供するものとなっている。さらに経済現象を歴史的に捉えるために必要な経済史関係の科目、経済学の過去を振り返る学史・思想史関係の科目、人口・環境・都市と地域など社会関連の学際的な科目も多く配置している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/econ/policy.html)</p>
<p>(概要) 通学課程の各学部のアドミッション・ポリシーにおおむね準じているが、通信教育課程としてはとくにつぎのような学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。 ・職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。 ・職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。 <p>選考は書類選考によるが、当該学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められる。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求める。</p>

<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公表している。 https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html)</p>
<p>(概要) 法学部は、法律学を主とする甲類と政治学を主とする乙類の2つに分かれている。それゆえ専門教育科目も甲類と乙類とは異なっている。法律学を学ぶ甲類と政治学を学ぶ乙類では対象とする学問の性質が同じではないが、法学部では社会に対する総合的洞察力を備えた自由で独立の気概にあふれた人間の育成を目指している。</p> <p>甲類</p>

憲法、民法、刑法、商法をはじめとする日本の現行の六法分野にとどまらず、経済法や社会保障法、それに国際法や外国法、さらに法（正義）の理念や法学の方法論を学ぶ法哲学、そして法の歴史をひもとく法制史など、さまざまなアプローチからの法を興味深く学ぶ機会を提供する。さらに政治的な言説の伝達に関わるマスコミュニケーション理論も学ぶことができる。

乙類

社会現象を理解する分析方法やさまざまな理論を学びつつ、古代から現代にいたる政治史や政治思想史を、日本はもちろんのこと他の地域においても考察し、国際比較のなかに現代の政治課題を深く考えるカリキュラムを提供する。その他、民法、国際法など、法律についても学ぶことができる。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。
<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>）

（概要）

法学部では所定の年限在学し、学則第11条に定める総合教育科目の所定の単位を修得し、かつ第74条の定める甲類（法律学を主とするもの）の科目ないしは乙類（政治学を主とするもの）のなかから所定の単位を修得した者に、学士の学位を与える。自由科目は含まれない。

個々の科目の単位認定にあたっては、厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に取得されているか否かに留意するものとする。卒業されるみなさんは、甲類、乙類で展開される専門的知識の取得はもとより、広く異文化の言語や風俗に通じ、人文・社会・自然科学的教養を身につけた「独立自尊」の人として、国内外を問わず先導者としての社会貢献を果たすことが期待される。

授与する学位は、学士（法学）である。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（補助教材『塾生ガイド』、ホームページにて公表している。
<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>）

（概要）

法学部は、甲類（法律学を主とするもの）、乙類（政治学を主とするもの）の2つの類からなり、学生はそれぞれ所属する類の法律学科目、政治学科目を履修する。

甲類では、テキスト科目として憲法、民法総論、刑法総論が必修科目となっている。これらは日本の現行法制度を知る上で必須な3教科として位置づけられている。

また乙類では、政治学と憲法が必修科目として定められており、わが国の政治現象をとらえる枠組みを示す。

それ以外に両類とも、数多くの選択必修科目が設置されている。

それらの学習の目標は、甲類では、法律の専門知識を備え、たとえば法律家になる人を育てるだけでなく、社会現象を法的にとらえる能力、すなわち“リーガルマインド”を育てることに置かれている。また乙類では、政治家や公務員になるためだけではなく、個別の行為や現象を全体との関連で適切に位置づける能力、つまり組織の指導者に要求されるジェネラリストとしての資質の涵養に学習の目標が置かれている。これらの専門教育科目は専門論理的な思考をみなさんに身につけて頂くことを目標としているが、法学部では専門と教養のバランスのとれた人間の創造という観点から、総合教育科目である、外国語や人文・社会・自然科学的分野の科目にも広く関心を持って学んで頂きたいと考えている。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：ホームページにて公表している。
<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/law/policy.html>）

(概要)

通学課程の法学部のアドミッション・ポリシーにおおむね準じているが、通信教育課程としてはとくにつぎのような学生を求めている。

- ・さまざまな事情で、通学課程に通うことが困難であった人、あるいは現に困難な人。
- ・職業生活を終えたが、その旺盛な向学心をさらに満たしたいと考えている人。
- ・職業生活の途上で、自らの学歴を高度化することによって、職業的なステップアップを考えている人。

選考は書類選考によるが、当該学部に入学するための一定の読書歴と、今後の勉学計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められる。入学後、円滑に勉学を進めていくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求められる。

法学部は、法律学を主として学ぶ甲類と、政治学を主として学ぶ乙類に分かれている。甲類、乙類、どちらで学ぶかは、出願時に決めなくてはなる。それぞれのカリキュラムの一覧を参照し、卒業後の自らの将来計画を考えあわせながら慎重に選び、途中で類を変えることなく、出願時に選んだ類での卒業を果たして頂きたい。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：慶應義塾 Web「情報公開」ページにて公開している。

<https://www.keio.ac.jp/ja/about/learn-more/data/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
文学部	—	99人	36人	0人	18人	0人	153人
経済学部	—	102人	31人	7人	17人	0人	157人
法学部	—	79人	18人	17人	4人	0人	118人
商学部	—	76人	30人	5人	4人	0人	115人
医学部	—	75人	70人	212人	380人	138人	875人
理工学部	—	152人	77人	32人	32人	0人	293人
総合政策学部	—	26人	14人	15人	0人	0人	55人
環境情報学部	—	33人	13人	7人	0人	0人	53人
看護医療学部	—	16人	8人	8人	17人	0人	49人
薬学部	—	24人	14人	16人	24人	0人	78人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		2,241人					2,241人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：慶應義塾web「研究者情報・業績」により公表している。 https://www.keio.ac.jp/ja/research/researchers/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入 学者数
文学部	800人	786人	98.3%	3,200人	3,538人	110.6%	人	人
経済学部	1,200人	1,160人	96.7%	4,800人	5,280人	110.0%	人	人
法学部	1,200人	1,239人	103.3%	4,800人	5,234人	109.0%	人	人
商学部	1,000人	1,015人	101.5%	4,000人	4,399人	110.0%	人	人
医学部	110人	110人	100.0%	666人	671人	100.8%	人	人
理工学部	932人	977人	104.8%	3,728人	4,067人	109.1%	人	人
総合政策学部	425人	387人	91.1%	1,700人	1,952人	114.8%	人	人
環境情報学部	425人	374人	88.0%	1,700人	2,004人	117.9%	人	人
看護医療学部	100人	111人	111.0%	415人	449人	108.2%	5人	5人
薬学部薬学科	150人	153人	102.0%	900人	903人	100.3%	人	人
薬学部薬科学科	60人	63人	105.0%	240人	250人	104.2%	人	人

合計	6,402人	6,375人	99.6%	26,149人	28,747人	109.9%	5人	5人
(備考)								
・2023年5月1日現在の学生数								
・入学定員は秋学期入学用の定員を含む								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	771人 (100%)	57人 (7.4%)	621人 (80.5%)	93人 (12.1%)
経済学部	1,169人 (100%)	54人 (4.6%)	957人 (81.9%)	158人 (13.5%)
法学部	1,156人 (100%)	134人 (11.6%)	920人 (79.6%)	102人 (8.8%)
商学部	986人 (100%)	31人 (3.1%)	866人 (87.8%)	89人 (9.0%)
医学部	113人 (100%)	1人 (0.9%)	1人 (0.9%)	111人 (98.2%)
理工学部	904人 (100%)	681人 (75.3%)	194人 (21.5%)	29人 (3.2%)
総合政策学部	432人 (100%)	45人 (10.4%)	339人 (78.5%)	48人 (11.1%)
環境情報学部	412人 (100%)	80人 (19.4%)	269人 (65.3%)	63人 (15.3%)
看護医療学部	107人 (100%)	6人 (5.6%)	97人 (90.7%)	4人 (3.7%)
薬学部 薬学科	59人 (100%)	45人 (76.3%)	9人 (15.3%)	5人 (8.5%)
薬学部 薬科学科	145人 (100%)	10人 (6.9%)	130人 (89.7%)	5人 (3.4%)
合計	6,254人 (100%)	1,144人 (18.3%)	4,403人 (70.4%)	707人 (11.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

通学課程：

- ・ 例年10月頃に次年度の授業担当者が決定するので、11月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、授業科目の内容・目的・方法・授業計画ならびに成績評価方法などについて『講義要綱・シラバス』として3月中旬を目途に公表している。

・ 閲覧方法

- ①在學生は Web の塾生サイトで ID とパスワードでログインし閲覧する。「塾生サイト」→「所属キャンパス」→「所属学部」→「時間割・シラバス・履修ページ」

例) 三田キャンパス

<https://www.students.keio.ac.jp/mt/class/registration/>

- ②一般向けには、表示項目の一部を除き公表している。

<https://gslbs.keio.jp/pub-syllabus/search>

通信教育課程：

- ・ 例年11月に次年度の授業担当者が決定するので、12月にシラバスの作成を依頼。翌年1月から3月にかけて編集し、『スクーリング講義要綱』、『テキスト科目履修要領』として4月に公表している。

・ 閲覧方法

- ① 学生用ポータルサイト (kcc-channel) で公開している。IDとパスワードでログインし、閲覧する。希望者には製本印刷したものを配布している。
- ② ホームページで外部からも閲覧可能。

<https://www.tsushin.keio.ac.jp/faculty/syllabus.html>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

通学課程：

・ 授業科目の評価は試験やレポートの提出を課し、成績は、S・A・B・C・Dの5段階評価を持って示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とし、合格した科目には所定の単位を与えている。また、学位認定については、履修科目で得た単位数に卒業論文の審査などにより取得した単位を加え、各学部学則に定める卒業必要単位数の充足をもって、各学部教授会が認定している。

通信教育課程：

・ 文学部：総合教育科目、語学ならびに専門分野に関する深い学識を備えた者に学位を授与する。学生は厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得し卒業論文を作成し卒業試験に合格することが必要。

・ 経済学部：総合教育科目、語学ならびに経済学全般に関する広い知識・理解力と経済学の特定専門分野に関する深い考察力を兼ね備えた者に学位を授与する。経済学を一つの軸とする教養を備え、変化する社会を適切に認識し、日本社会をリードすると同時に世界で活躍できる能力を証するものとして学位を授与する方針。

・ 法学部：法学部では所定の年限在学し、学則第11条に定める総合教育科目の所定の単位を修得し、かつ第74条の定める甲類（法律学を主とするもの）の科目ないしは乙類（政治学を主とするもの）のなかから所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。自由科目は含まれない。個々の科目の単位認定は厳格な成績評価を行い、各々の科目に関する基礎的知識や技法が着実に修得されているか否かに留意するものとする。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部		128 単位	有・無	単位
文学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
経済学部		126 単位	有・無	単位
経済学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
法学部		136 単位	有・無	単位
法学部 (通信教育課程)		124 単位	有・無	単位
商学部		128 単位	有・無	単位
医学部		236 単位	有・無	単位
理工学部		138 単位	有・無	単位
総合政策学部		124 単位	有・無	単位
環境情報学部		124 単位	有・無	単位
看護医療学部		124 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	188 単位	有・無	単位
	薬科学科	126 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：慶應義塾 web「キャンパス」ページにて公表している。
<https://www.keio.ac.jp/ja/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(通学課程) <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/fees/>

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部		900,000 円	200,000 円	270,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金を除く額を納付。 ・左記以外に、大学が代理徴収する学生健康保険互助組合費、研究会費等 (3,350 円～15,850 円/年) を併せて納付。 ・その他には、在籍基本料、施設設備費、実験実習費が含まれる。
経済学部		900,000 円	200,000 円	270,000 円	
法学部		900,000 円	200,000 円	270,000 円	
商学部		900,000 円	200,000 円	270,000 円	
医学部		3,040,000 円	200,000 円	630,000 円	
理工学部		1,310,000 円	200,000 円	390,000 円	
総合政策学部		1,070,000 円	200,000 円	350,000 円	
環境情報学部		1,070,000 円	200,000 円	350,000 円	
看護医療学部		1,070,000 円	200,000 円	630,000 円	
薬学部	薬学科	1,740,000 円	200,000 円	580,000 円	
	薬科学科	1,460,000 円	200,000 円	580,000 円	

(通信教育課程) <https://www.tsushin.keio.ac.jp/admissions/tuition.html>
 2021年度以前入学者と2022年度以降入学者で学費体系が異なる。

<文学部・経済学部・法学部共通> 2021年度以前入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部		70,000円～	20,000円	60,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金とその他に含まれる選考料を除く額を納付。 ・授業料部分は、教育費70,000円とスクーリング受講料(学生により納入額が異なる。メディア授業を含む。)5,000円～(履修単位数等により異なる)で表記。 ・その他には、選考料、在籍基本料、教材費が含まれる。 ・左記以外に、卒業論文指導関連で在籍期間中に30,000円を納付。 ・在学所要年数(例:普通課程4年)経過後は、金額が変わる。
経済学部		70,000円～	20,000円	60,000円	
法学部		70,000円～	20,000円	60,000円	

<文学部・経済学部・法学部共通> 2022年度以降入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
文学部		140,000円～	30,000円	50,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・左記金額は初年度納付額。入学2年目以降は入学金とその他に含まれる選考料を除く額を納付。 ・授業料部分は、授業料140,000円とスクーリング受講料(学生により納入額が異なる。メディア授業を含む。)5,000円～(履修単位数等により異なる)で表記。 ・その他には、選考料、在籍基本料が含まれる。
経済学部		140,000円～	30,000円	50,000円	
法学部		140,000円～	30,000円	50,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学習に係る支援については、各学部・研究科の学習指導担当教員および学部担当職員が責任をもってこれにあたり、直接学生の相談に乗り、アドバイスを与え、留年者や休・退学者・成績不振者の状況把握とそれに基づく対応を行っている。</p> <p>経済的な支援については、大学独自の奨学金を80種類以上設置し、学生からの多様な経済的ニーズに答えている。大学独自の奨学金は全て返済の必要のない給付奨学金であり、卒業後の経済的負担を心配することなく勉学に励むことを可能にしている。また、学生寮の充実を図り地方や海外の学生が入学しやすい環境を整えている。その中でも国際学生寮では</p>
--

留学生との交流を通じて高い国際性を身につけることも期待できる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>個別相談、ガイダンス（セミナー）、求人・就活関連情報提供により支援している。</p> <p>個別相談については原則として事前予約制とし、進路に関する相談全般、模擬面接、応募書類へのアドバイスが大まかなサービス内容となっている。</p> <p>ガイダンス（セミナー）については、主に民間・公務への就職希望者を対象として、就職活動に関する総論、具体的な選考対策等の各論、外国人留学生・障害のある学生向けといった属性別など幅広いテーマにて、全キャンパス合わせて年間100回程度行っている。</p> <p>求人・就活関連情報については、様々な企業・団体から届く求人票、就職・キャリア関連イベント、資格試験等の情報を提供している。また、OB・OG 訪問のための卒業生検索システムや、就職活動を終えた先輩学生より寄せられた就職活動体験記を閲覧できるシステムを整備している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>心身の健康に対しては、各地区に、医師・保健師が常在する保健管理センター、臨床心理士または公認心理師の資格を有するカウンセラーが常在する相談窓口（日吉・三田・矢上・芝共立では「学生相談室」、信濃町では「ストレス・マネジメント室」、湘南藤沢では「心身ウェルネスセンター」）を設置している。学生相談室では、学生生活上の諸問題に関する相談に応じ、カウンセリングを通して健全な心身の発達と学生生活の向上を図ることを目的に、対面、電話、オンラインでの個別相談およびグループワーク等による支援を行っている。</p> <p>生活支援や生活指導に関しては、「学生教育研究災害傷害保険」に加入し、正課・課外活動中の事故等へ対応するとともに、飲酒事故・薬物使用・各種トラブル防止のため、リーフレット配布、ガイダンス、e-learning 科目等により啓発を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：慶應義塾 web「教育」「研究」ページにて公表している。</p> <p>「教育」https://www.keio.ac.jp/ja/academics/</p> <p>「研究」https://www.keio.ac.jp/ja/research/</p>
--